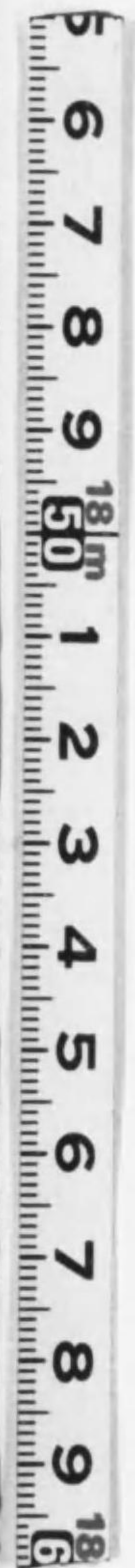


特257
512

蘆州

昭和改訂版
肉十二



始



蘆 刈

(梗概) 攝津の國草香の里に住む左衛門と言ふ人、家貧つゝきまゝ、一時夫婦別居し、妻は都へ上り、さる貴人の家の乳母となりて年を過こし、かゝねて戀ふる夫との再會を樂みつゝ、故郷草香の里へ下りけるに、契りし夫の行くへ知れず、如何はせんと思ふ所に、偶々蘆賣る男來り、蘆に就てのくさくさの物語など、笠盡しの舞などを舞ひて興を添へぬ。女輿の内より窺ひ見て其蘆賣こそまがふかたなきわら夫なるに驚き、蘆一本買はんとせしに、男身を耻ぢて姿を隠せしかば、女自ら名宣りて、夫との再會を嬉む、夫は妻の持ち來れる心盡しの烏帽子直垂にて祝ひの舞をまひ、夫婦ち連れて、今は春べの都をさしてめでたく歸り行きぬ。

シテ 草香左衛門
ツレ 左衛門の妻

ワキ 從者

ワキヅレ 同三人

所 攝津國草香の里
季 春

若き州

^{わかき} ^{つぎ} ^上 ^{三人} ^引 古き都の乃たなまや〜 難波乃浦

を尋ん 詞是ハ都去四方小仕中者

あそひ是に渡里ハ此方ハ 軒まりハ人

のそ子此清氣の人よて渡里ハ此里也

津の國草香の里あてハ今一度津

下里有度申信出程よ我亦伴ひ申上流
より川舟は葉中。此今津の必難波
此内子香の里入と急山わき上渡舟やうづ
此京乃曙よ影も残りてあゆの
山本霧む水無瀬河渚の森をよほよみ
て程行末も波字を大江乃峯と移り行

波も入江の里はく難波乃浦よ急山
急山程よ津國難波の
急山程よ津國難波の
急山程よ津國難波の

左津つ殿の江行末を尋ふまは侍よまてい
尤みくい先ううく山産山入シカク
左津つ殿の江行末を尋ふまは侍よまてい

けあよはは入なき中^ナの^ナ 禾上^ナ実や家

を^ナあよして^ナ親^ナなき^ナなく^ナ時^ナあよ^ナち

か人^ナうと^ナと^ナや中^ナあれ^ナば^ナ方^ナよ^ナ限

らぬ^ナあ^ナひ^ナあ^ナれ^ナた^ナ解^ナり^ナふ^ナ海^ナま^ナた^ナた^ナた

果^ナだ^ナあ^ナは^ナ心^ナめ^ナと^ナあ^ナの^ナ行^ナ清^ナあ^ナる^ナき^ナあ^ナら

ら^ナ極^ナの^ナ葉^ナの^ナ言^ナの^ナ葉^ナと^ナま^ナは^ナあ^ナる

一うゆ^ナの^ナ暫^ナけ^ナ難^ナ波^ナの^ナ浦^ナ子^ナ遠^ナ留^ナ一^ナは

行^ナ清^ナを^ナる^ナあ^ナと^ナあ^ナひ^ナ ^あ実^ナと^ナ作^ナ尤

あ^ナく^ナひ^ナ左^ナ有^ナの^ナ暫^ナ当^ナ浦^ナ子^ナは^ナ遠^ナ留^ナあ^ナひ^ナく

粒^ナこ^ナは^ナ行^ナ直^ナを^ナは^ナる^ナ者^ナあ^ナず^ナる^ナあ^ナて^ナは^ナ ^シ ^カ

一^ナ上^ナ是^ナ妻^ナの^ナ止^ナ丁^ナ我^ナの^ナあ^ナめ^ナ難^ナ波^ナは^ナよ^ナむ^ナら^ナあ^ナは

波^ナの^ナ淡^ナ路^ナ浮^ナ実^ナや^ナ新^ナ插^ナと^ナ浦^ナこ^ナの^ナ葉

一たをともめぬに我は難波舟乃出
一さきき海船胡心もうらふ面白き
よ難波なるこころしきさうなるま
を我たよ志ぬおも忘れ
まふ市の中こふ 隠き取のあ拍を
是にけ難波の濱乃市よ出て 芦を土賣

て世を渡る者にはいふ事ふとも又市よお
たやとおひひ なる〜 若らりの中
魚〜 芦るまゆ〜 凡そ末残
志事ハ多かれは難波よおひて 芦を
志事ハ事ハふあまの心に入てやせ〜
一我はゆ〜しゆと買なき〜 都人よん世の中

べー^しけ新よこ^しのきりきり^しと^し美人と

唯何をわうま^しいふ^し実や都の人と

難波のきりきり^しのきりきり^しと^しもな

し^しこれ^しき^しあ^しう^し我も昔の難波津乃

名^しお^しお^し古^しき^し都^し人のゆ^しりの^しあ^しの^しお

ち^しあ^しま^しし^しる^し身^しも^し枯^し若^しを^し此^し色^しな^しく^しと^しと

よ^しー^しあ^しま^しし^しる^しま^しい^しゆ^しへ^しあ^しよ^しー^しと^しあ^しの^しい^し

の^しあ^しま^しし^しる^しま^しい^しゆ^しへ^しあ^しよ^しー^しと^しあ^しの^しい^し

同^し一^しあ^しま^しし^しる^しま^しい^しゆ^しへ^しあ^しよ^しー^しと^しあ^しの^しい^し

穂^しよ^し出^しぬ^しま^しし^しる^し尾^し花^しを^しい^しへ^しあ^しの^しい^しゆ^しへ^しあ^しよ^しー^しと^しあ^しの^しい^し

ハ^し揚^しの^しあ^しま^しし^しる^しま^しい^しゆ^しへ^しあ^しよ^しー^しと^しあ^しの^しい^し

さん^し借^しけ^しま^しし^しる^しを^し伴^し勢^し人^しも^し流^しれ^し秋^しと^しい^しひ

あまの... 舞... 日... 舞...
 難波人ハ... 若きといふ... むつりや難
 波乃浦のよーあーもー... 舞... 舞...
 ハえそまぬ... 舞... 舞...
 乃命はるむとて... 舞... 舞...
 市に出はあー舞... 舞... 舞...
 よやおるー舞... 舞... 舞...

舞波の草を刈持て... 舞... 舞...
 ぬまのや... 舞... 舞...
 るまよや... 舞... 舞...
 中... 舞... 舞...
 くち中... 舞... 舞...
 丁舞... 舞... 舞...

わき

あゝふしきや女川の濱乃車を為中
てゆくはふさきるとは昔歌ゆ是は何ぞ
中し家半にそいそ 一てト あゝ何をあや
あゝ何連ころの濱とは為いそ 上 来くも
仁徳天皇此難波はよ大なる能り一そ
但せ路ひ一よ依く清津とせてころ

海

海

乃濱とふ中あり わき上 謂をまの面白
皇居たりつる浦をれは津の濱と
理りか 一して 波は海を北大宮なまきた
漁村よともは葉火とこと キ 林も葉を紫
遊の清火りと入て上雲上乃月郷
よま下万民の民をいもあまのちりま

あーぐねのせむし^ノ踏^フたる今^ノと^キも有^リ上
 たるまー^ノ傍^ノぞりー^ノ屋^ノあま^ノは^ノ読^ミせよ
 津^ノ津^ノの^ノ濱^ノよ^ノ羅^ノ子^ノ調^ノふる^ノ羅^ノ舟^ノの^ノえい
 や^ノく^ノと^ノよ^ノせ^ノ舟^ノ侍^ノぞ^ノや^ノ 禾^ノ名^ノふ^ノー^ノお^ノふ
 雞^ノ波^ノ津^ノ乃^ノく^ノ羅^ノも^ノと^ノ大^ノ字^ノの^ノ内^ノと
 せ^ノゆ^ノあ^ノび^ノかん^ノせ^ノと^ノた^ノい^ノかん^ノなる^ノふる^ノ海^ノ士^ノ乃^ノ

よ^ノび^ノお^ノう^ノと^ノ後^ノを^ノん^ノ侍^ノ古^ノ字^ノの^ノえ^ノと^ノ引^ノ羅
 乃^ノ目^ノの^ノお^ノよ^ノん^ノし^ノる^ノを^ノん^ノ侍^ノあ^ノま^ノは^ノ読^ミせ
 よ^ノや^ノ人^ノの^ノ面^ノ白^ノや^ノを^ノあ^ノく^ノん^ノく^ノ人^ノ
 小^ノん^ノせ^ノだ^ノや^ノ津^ノ乃^ノ國^ノの^ノ雞^ノ波^ノわ^ノり^ノれ^ノま
 乃^ノ葉^ノま^ノお^ノほ^ノろ^ノ舟^ノま^ノぐ^ノま^ノ侍^ノ津^ノの^ノ路^ノ
 磯^ノ子^ノ乃^ノ連^ノま^ノて^ノ友^ノ味^ノや^ノ海^ノ士^ノの^ノ小^ノ舟^ノを

ヤア

ヤア

ヤア

ヤア

ヤア

不覺^{ヤア}上^ト雨^ノよき^ハ家^ノく^レ田^ノ葉^ノの^ハ嬉^シも^ハ何^レ
 る^ハもの^レバ^ハ露^もも^もき^も者^乃は^まい^なま^とう^あか^か
 鏡^{ヤア} 雅^{ロキギ}波^ハ津^ノの^ハま^まな^れや^ト 名^ノよ^あお^ふ
 梅^乃花^笠 ぬ^おて^お多^のの^お多^よも^も
 未^{カキギ}鶴^も有^の明^の 月^乃笠^よ袖^もも^も
 天津^ト乙^女の^まぬ^笠 夫^ハ乙^女 是^ハ又^{ヤア}

目^ト下^ニカ^ク 靴^波女^乃 かつ^く袖^笠ひ^ち笠^の
 雨^乃あ^への^私も^序を^波あ^あく^く
 ら^らし^め風^のあ^まも^もお^おも^もお^おも^も
 何^レも^もな^もも^も何^レも^も何^レも^も
 何^レも^も何^レも^も何^レも^も

何^レも^も何^レも^も何^レも^も

夢者よ、生をきこ一本持てまねと信ぐ
ふゆ中わきに、いかに草うる人お楽のうち
よをききまわりの事して 安き間の事この
草を糸あかいせあかいしや、志たき持ては糸阿れ
との心事してよめては 餘りに夢神いよの程
にう上様あかいとあかい存あかいひ 穉あかい吳あかい穉あかいの苦あかい一あかいうあかいす

ひあかいの志あかい持ては糸あかいりよああかいふあかいたや
今あかい乃あかい夢をきき者、草持て糸あかいと同く
糸去あかいひお付て、糸あかい後あかい返あかいひ、何あかいと申あかい一
ああかいふあかいよめては、今あかいの何あかいをうあかい色あかい又あかい糸あかい
せあかいふあかいああかいぬあかいべき、今あかい乃あかい夢をききも、此あかいを能あかいと
見あかい入あかいへあかいいあかいよあかい一あかい人あかいよめては、やああかいはあかいまあかい一

乃^ニ海^ノや^ハび ^{あま}新^ニ目^ヲ出^スシ^テの^ノ法^ノ事^ノや^ハび

其^ノ為^ニハ^シ我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

某^レ法^ノ付^キあ^ハり^テあ^ハる^ニよ^リ ^{あま}法^ノ

人^ノ心^ノは^ハあ^ハる^ニ ^{あま}我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

行^ヒそ^ノま^カく^ニ ^{あま}我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

^{あま}法^ノ ^{あま}新^ニ目^ヲ出^スシ^テの^ノ法^ノ事^ノや^ハび ^{あま}法^ノ

其^レ法^ノ付^キあ^ハり^テあ^ハる^ニよ^リ ^{あま}法^ノ

人^ノ心^ノは^ハあ^ハる^ニ ^{あま}我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

行^ヒそ^ノま^カく^ニ ^{あま}我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

^{あま}法^ノ ^{あま}新^ニ目^ヲ出^スシ^テの^ノ法^ノ事^ノや^ハび ^{あま}法^ノ

其^レ法^ノ付^キあ^ハり^テあ^ハる^ニよ^リ ^{あま}法^ノ

人^ノ心^ノは^ハあ^ハる^ニ ^{あま}我^レ等^ノ心^ヲ以^テ法^ノ下^ニ同^ニシ^テ入^ル

斗あり 時^{とき}に思へおまゝに又人乃をい
白お返のおき別ふーきぬぐの妻や
まー難波人 若き火たくをいきた
きとおのつまきぬまゝあゝで又誰お
う別夜^{スレト} 君なくてあーかりなるお思ふ
あぞいと難波の浦を住らま^上 あー

かゝーとて人をも別けぬ何れ難波
乃浦に住らま^上 実や難波津^ト津^ト香
山の道に夫婦の中^上にあらなれ^上 此の
いふ何れもついで居の^ト海^トましてはあふ出
やの戸を^{ヤア}推^ト開^トく出^トあぐ^ト 西^トあ^ト乃^ト家^ト
海^トや^ト二年^トの^ト島^トー^トあ^トな^トれ^トや^トう^トつ^トに

ヤラ

ヤラ

あふの松原うや木陰よ園居しそ

難波の音借らん あまき いくに左衛門殿

初よりま鳥帽子を楽を拵せていゝ

まきと クリ同上 夫言た山涼き海妹宵恋路

の跡るぐぐ 物着 妹は難波乃海山北世にたぐ

ひなまき 上 情とうや サレ あるに男山の音貞茂

あひ出ぐ 日 女郎ものし時をいゝなると

くま 上 ひとなぐさ 上 みるそのた乃 上 ぬもた

お秋萩のものと此萩乃消海りしきあ

まける 上 命下 上 ね 上 さ 上 ま 上 ぶ 上 ぐ 上 程 上 よ 上 妻 上 入 上 ぐ

身をばつら 上 の森なま 上 きの 上 詞 上 の花 上 了 上 枝

便 上 ち 上 の 上 ま 上 ち 上 曲下 難 上 波 上 津 上 よ 上 咲 上 や 上 け 上 ち 上 を 上 花

十一

十三

籠里今も昔もあやめをけむる業も
ひたる仁徳天皇とてあはせ給ひし
難波の清子の出陣 又涉香山乃言
此業の采女乃 吾取あへて恨をのへ
あともやけにあり今とて乃 歌の父母成
故よ世に善た花ちの 云れを草乃

種を置て ぬおとたのちあはしめ
来へ 蛇身六目よ入ぬ鬼神をまや
いそむ 武士乃んたぐさむむる 夫婦は情
志家とも今も此上に志しきなり

上 津の國乃難波のまきいそむなれや 恙の
枯葉よ風渡る 波乃立居の際とてとも

あつたべーやいひ女の濱乃真砂を
よみおろしはくせきけりしきせめや
もてあそぶ名よーおふ難波の根歩と
まてあそび突おゆりあふえんてを嬉し
のあそびも^上さうやいせの申たちの
この葉草乃末うけて頼むや寿成院

あつたべーやいひ女の濱乃真砂を
よみおろしはくせきけりしきせめや
もてあそぶ名よーおふ難波の根歩と
まてあそび突おゆりあふえんてを嬉し
のあそびも^上さうやいせの申たちの
この葉草乃末うけて頼むや寿成院

上^マの^イ浮世^ミは^キ難波^フ江^シの^ノ岸^キに^ハ
 若^カ葉^ハを^モも^トる^ル白^ハ波^ハの^ノ月^トを^ミたり^シる^ト
 此^ノに^ハ海^ノの^ノ國^乃も^ヤ此^ノ位^居乃^冬を^籠り[。]
 今^ノま^まと^都れ^ちら^よと^そい^まし^てい^はふ^や
 大^伴乃^の浦^半の^えん^つを^おり^よ
 由^るそ^うし^て我^を嬉^しく^ます[。]

昭和九年三月廿五日印刷
 昭和九年三月三十日發行

定價金五拾錢

著 作 者
 有 所 權 在 著

東京市下谷區上根岸町八十二番地
 著 者 寶 生 新

發行兼印刷者 江島 伊兵衛

發行所 下掛寶生流談本刊行會

終

